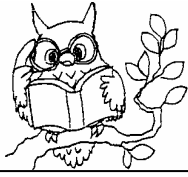


図書館だより

No.169



2008(平成20)年9月30日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218 fax 024-536-4787

http://www.library.fks.ed.jp/

秋

朝・夕とそろそろ涼しくなってきましたが、みなさまいかがお過ごしですか。スポーツの秋、芸術の秋、読書の秋とさまざまなことが楽しみな季節ですが、図書館でも秋にちなんだ展示や行事を行っております。ぜひ図書館に秋を感じにおいでください。

<展示>

のぞいてみよう!

虫のせかい展

-『ファーブル昆虫記』を中心に-

場所:
当館・展示コーナー

期間:
10月3日(金)~
平成21年2月4日(水)

『ファーブル昆虫記』最終巻の10巻目が出版されて100年にあたる昨年からは、絵本・よみものなどさまざまな形で同書の刊行が相次いでいます。それら多彩な『昆虫記』とともに現代の昆虫に関する児童書を紹介します。また、『ふくしま虫の目探検』の作者、矢内靖史氏の写真も展示します。ぜひご覧ください。

木の特性を活かし、さまざまな切り方をした小枝を組み合わせて作成した、動物や虫等の「木のクラフト」の置物・アクセサリ・壁掛け等、約50点を展示します。
***あきのおはなしかい・工作教室*のお知らせ**

内容:絵本の読み聞かせや木の枝を使った工作をします。

日時:11月1日(土) 午後1時半~ (約2時間)

会場:当館・第一研修室 対象:親子30組

申込:当館・こどものへやカウンター(先着順)

<ロビー展示>

木のぬくもりとやさしさ

木の枝クラフト展

展示: 福島県もりの案内人 菅野 一 氏

場所:当館・ロビー

期間:10月3日(金)~

11月5日(水)

~本で秋の動植物を調べるには~

ふと目にした花、ふと耳にした虫の音、調べてみたくなったことはありませんか?ここでは、そのような時に活用できる図鑑を一部ご紹介します。ぜひお手にとって、ご覧ください。意外な引き方ができるものもあり、調べるのがより楽しくなるかもしれません。

【草花】

・『花色でひける野草・雑草観察図鑑』

高橋良孝/監修 2004.4

470.38/3044/ 自然公開

花の色・葉の形から引ける写真目次あり。
開花月順に掲載。

・『原色植物検索図鑑』

矢野佐/著 2003.7

470.38/ヤタ037/ 自然参考別

【昆虫】

・『原色昆虫大図鑑』

北隆館 2007~2008

486.038/ヤオ071/ 自然参考別

全3巻。標本写真等を最初に掲載し、
解説のページが後にある。

・『日本の秋の虫』

小林正明/著 1985.9

486.3/K/ 自然大型別

【鳥】

・『原色新鳥類検索図鑑』

宇田川竜男/原著 2003.8

488.038/ウタ038/ 自然参考別

タイプによる種の検索表と検索
図表(鳥の形態)、目・科の検索
表がある。

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お勧めの新着資料をご紹介します。

人文・自然

『美しい日本語の風景』

中西進/著 淡交社 810.4/ナ083

「空と大地のことば」「四季のことば」「人と心のことば」に関する美しい日本語をとりあげ、解説している本です。「ののさま」「のわき」「はなすすき」「たまのお」「かおり」etc.中には今ではあまり耳にする機会がなくなったことばもありますが、響きの美しさはもとより、成り立ちや意味などを知ると日本語の美しさを再認識することでしょう。

ことばにちなんだ風景写真も多数挿入されています。どこか懐かしさを感じる風景に癒されてみませんか。

『日本の天文学の百年』

日本天文学会百年史編纂委員会/編

恒星社厚生閣 440.21/ニ083

日本の天文学研究における中心的存在、日本天文学会は1908年(明治41)に設立されました。本書は日本の天文学の歴史や研究の成果、天文学を取り巻く環境について網羅的に書かれており、また、コラムも楽しく読めるものとなっています。読後は星空やプラネタリウムを眺める視点が変わって、さらに楽しめるようになることでしょう。

社会

『日本古代木簡字典』

奈良文化財研究所/編 R210.029/ナ086

古代、紙が大変な貴重品であった時代には荷物の送り状や日常のメモ、時には書状などにも、木や竹で作られた「木簡・竹簡」が使われていました。都や屋敷跡の発掘調査では現在でも多くの木簡が出土します。

本書では、平城宮跡より出土した大量の木簡の文字のうち940種を収録しています。漢和字典同様の索引も充実しています。

『やさしく読み解く裁判員のための法廷用語ハンドブック』

日本弁護士連合会裁判員制度実施本部法廷用語の日常語化に関するプロジェクトチーム/編 327.6/ニ085

専門用語はどの業界の用語も部外者にとっては外国語のような印象を与えます。しかし、来年5月までに導入が決まった「裁判員制度」では、「法律の素人」が法廷に座り重要な審議に参加します。

裁判員に選ばれた方も選ばれる前の方も、この本で簡単な法廷用語とその使い方をご覧ください。

また、最高裁判所で作成した裁判員制度に関するビデオ・DVD「裁判員」「審理」もご利用いただけます。社会科学カウンターにてご相談ください。

雑誌・新聞

先日まで行われていた、北京五輪に関連する雑誌記事をご紹介します。

『潮 2008.9』 潮出版社 Z051/U1

北京にかける日本人アスリートたちの熱きドラマ。(「北京オリンピック」に挑む)

『諸君 2008.9』 文藝春秋 Z051/S28

総力特集 北京五輪 虚飾の祭典

『Forbes 2008.9』 ぎょうせい Z335/F1

有力選手をサポートする企業の取り組み(どう読む 北京五輪の経済インパクト)

『Mamor 2008.9』 扶桑社 Z390.5/M1

各大会に選手を送り国内大会を成功に導いた自衛隊 オリンピック支援活動47年史(特集 北京オリンピック開幕記念 がんばれ、ニッポン! メダルを目指す自衛隊員たち)

『Voice 2008.8』 PHP 研究所 Z051/V1

日系企業の生き地獄(特集 オリンピックで自滅するか中国)

『化学 2008.8』 発行 化学同人 Z430.5/K1

北京の大気汚染はアスリートにとって心配ないの?--喘息に関する意外な実態(特集 北京オリンピック迫る! アスリートを支える素材と技術)

地域

今年は中国・北京で夏季オリンピックが開催され、県内からも多くのスポーツ選手が参加しました。中でも女子陸上競技には、福島大学の学生・卒業生が多く出場し、注目を集めました。

『福島大学陸上部の「速い走り」が身につく本 あらゆるスポーツに応用できる「川本理論」のすべて』

川本和久/著 マキノ出版 L782.3/K2/2

著者は福島大学の陸上競技部監督。本書ではあらゆるスポーツの基本である「速く走る」ための方法を分かりやすく解説しています。北京オリンピックにも出場した池田久美子(走り幅跳び)、丹野麻美(400m)、久保倉里美(400mハードル)各選手のカラーコラムも掲載。

陸上競技部の活躍が脚光を浴びる福島大学ですが、もちろん学術研究の分野でも成果をあげています。

『歴史小説の空間 鷗外小説とその流れ』

勝倉寿一/著 和泉書院 LA910.2/K6/1

「福島大学叢書新シリーズ」の最新刊。著者は人間発達文化学類教授。鷗外や芥川をはじめ多くの純文学系歴史小説家が存在するにも関わらず、体系的な研究が行なわれてこなかった「歴史小説」というジャンルを多面的に考察。福島県初の芥川賞作家・中山義秀が明智光秀の生涯を描いた歴史小説「咲庵」についても論述しています。